



吉本みづる県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会 〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

JR内房線の強風対策で要望

京葉線と同じ防風柵の設置を！

富津市特集 12月県議会一般質問



12月県議会で壇上から森田知事に語りかける吉本充県議

県議会で、これまで文教常任委員長を務めるなど、県議3期の経験と実績を生かし、富津市選出の吉本充（よしもと・みづる）県議は、特に教育関係ではその発言力をますます高めています。昨年12月定例議会では、一般質問に立ち、内房線の強風対策を取り上げ、佐貫町・上総湊駅間に京葉線と同じような防風柵の設置を提案し、執行部に強く迫りました。

また、地元の内房地域の漁業振興では、積極的に水産資源を増やしていくよう、漁業者の立場から要望しました。

12月県議会では、自民党県議団の提案による「千葉県体育・スポーツ振興条例」が可決、制定されましたが、吉本県議が同条例案づくりの中心的な役割を担い、青少年の健全育成に情熱を傾ける吉本県議ならではの成果を挙げました。12月議会での吉本県議の主な質疑を特集しました。

吉本議員 JR内房線は、風に大変弱く、列車の遅延や運休が相次いでいます。この原因については、根本的な問題として、海沿いを運行する路線であることから、海風の影響を受けやすいことによるものと思われます。

JR東日本では、平成17年の山形県・羽越本線での脱線事故を受け、安全確保の観点から、運転規制の基準を厳しくしています。風速毎秒25メートルで速度規制、30メートルで運転中止としていたものを、5メートルずつ基準を引き下げ、風速毎秒20メートルで速度規制、25メートルで運転中止に早めの規制に変更しています。

調査用の風速計設置

総合企画部長 県では、内房線の強風対策について、富津市などから強い要望のあったことを踏まえ、県や県内市町村等で構成する「千葉県JR線複線化等促進期成同盟」を通じ、本年7月にJR東日本本社、8月に千葉支社に対して、重点要望として働きかけたところです。

JR東日本では、佐貫町・上総湊駅間の海沿いのトンネル付近で、風速が規制

内房線と同じように、風に弱いと言われる京葉線は、千葉県JR複線化等促進期成同盟を通じ、地元と県が一体となって強風対策を要望した結果、本年6月にJR東日本から、新たな防風柵を設置することが発表され、10月には工事に着手されました。

運転規制は、確かに安全性を確保する面からは止むを得ないことと思いますが、京葉線だけでなく、県内観光の足であり、かつ地元住民の貴重な生活の足である内房線、特に佐貫町・上総湊駅間についても、JR東日本が防風柵を設置するなど、強風対策を実施し、利用しやすい内房線を実現していただきたいと思っています。

今後とも、この地域での強風対策の検討状況について、JR東日本から情報収集を行うとともに、地元からの強い要望を踏まえ、効果的な強風対策が講じられるよう、期成同盟を通じて

強く働きかけてまいりたいと考えています。

要望 JR内房線の強風対策について、ご答弁のあったように、しっかりと地元の意向も受け止めて、JR東日本には強く要望していただき、一日も早い解決をお願いします。今朝の混乱を見ていただければ分かる通り、決して台風などだけでなく、ちよつと風が吹けば、この区間は遅延してしまうことが、日常的に起きていますので、ご理解いただきたいと思います。

市民の声を県政に届けます

県政や富津市の
ご相談、ご意見を
聞かせてください

吉本 充

県議事務所

〒293-0006 富津市下飯野1114-2
TEL.0439-80-1885

ふるさと富津の活性化を！



地元の漁業者から実情を聞く吉本県議

内房地域の漁業振興で要望

水産関係予算の増大を

吉本議員 千葉県といえば海、そして海産物が豊富な県として全国的に知られており、全国第6位の水揚げを誇る水産県です。東京湾から、内房にかけての地域は、館山道の開通や東京湾アクアラインの800円効果もあつて、首都圏からのお客様で賑わいをみせています。

一方で、地域の漁村を巡ってみますと、そうした賑わいとは裏腹に、漁業者か

らは、魚が獲れない、燃油や資材が高い、魚の値段も思うように上がらない、といった漁業の不振を嘆く声が聞こえてきます。

特に、魚が以前に比べて獲れなくなったという声が強く、水産資源の減少が漁家経営に大きく影響していることは間違いありません。最近では、特産品のノリやアサリも温暖化や外敵の発生などさまざまな環境の変化を受けて大きく減少して

います。

昨今は、国の水産関係予算が大きく減少していると聞いています。その中で、県として積極的に水産資源を増やしていくことについて、どのように考えているのか。

資源の維持・増大に努力

森田知事 水産資源の維持・増大を図ることは、ポテンシャルある本県水産業を振興し、水産物を安定的に提供するために重要であり、千葉県総合計画「輝け！ちば元気プラン」においても重点施策に位置づけ、積極的に取り組んでいます。

具体的には、長期計画に基づき、種苗の放流や漁場の造成を積極的に進めることとしており、今後とも

(1) マダイ、ヒラメなど、より良質な種苗を大量に生産し、さらに放流後の生き残りを高める技術の向上

(2) 水産生物の繁殖や生態を考慮した効果的な漁礁の整備

(3) 資源の持続的利用を図るための、より高度な資源管理の展開
―に取り組み、効果的な水産資源の維持・増大に努めてまいります。

豊かな海の復元求め

吉本議員 県はこれまで、東京湾に栽培漁業センターを設け、ヒラメやマコガレイなどの種苗の放流や、高い水温でも安定して養殖できるノリの新品種「ちばの輝き」を開発するなど、積極的に漁業対策を講じておられますが、これらの取り組みは漁業者にとつても、ありがたく大いに評価するところで。

また、漁業の現場においても、漁業者自らさまざまな工夫や対策に取り組んでいます。例えば、県が生産したマダイの稚魚を、生き残りを高めるため少しでも大きくする中間育成や、少しでも高く魚を販売するための大手量販店との直接取引などを行うようになっています。

私の地元漁協でも、特産のアナゴを「千葉ブランド水産物」として認定を受け、稀少なブランド品として積極的に売り出しているという取り組みを始めました。

こうした取り組みは、漁協や漁業者の方々の努力の現われですが、それも資源が潤沢にあつてこそ十分な成果を発揮するものといえます。

資源管理に県が支援

森田知事 富津市から館山市にかけての内房地域は、定置網のほか、さし網や釣り漁業などの小型漁船漁業が盛んな地域です。

そこで、本地域の主要な魚種であるマダイ、ヒラメ、マコガレイなどについて、人工種苗を毎年放流して資源を直接増やすとともに、当該海域において人工漁礁を設置し、新たな漁場を造成してきています。

また、

資源管理については、地域漁業者が取り組み漁具の改良による小型魚の保護や再放流、禁漁区の設定などの活動に対して支援を行っています。

今後とも、種苗の生産と放流、魚場の造成、資源の管理を積極的に進め、内房地域の資源の増大を目指してまいります。



県立印旛明誠高校の視察で



恒例の金谷剣志会の子どもたちと空き缶拾い

教育・スポーツ産業振興で

インクルーシブ教育 性急な制度改革に懸念

制度の検証と評価が優先
吉本議員 平成19年に学校教育法の改正があり、それまでの特殊教育から、新たな制度の下での特別支援教育となつて4年目となりますが、ここでまた、インクルーシブ教育の導入が国で検討されています。
そもそも、インクルーシブ教育は、障害児が障害児以外の者と原則分けられず、「共に学び共に育つ教育」とすることを基本とする、と

伺っています。
しかし、現在行われている特別支援教育の検証と評価をしっかりと行うことなく、このように性急な制度改革が進められていることに、大きな懸念を抱かずにはいられません。



県立館山聾学校を視察する吉本県議(左)

そこで伺います。インクルーシブ教育では、就学の段階で障害のある子どもたちを、原則、地域の小・中学校に在籍させると聞きますが、これまでの国の検討状況はどうなっているのか。
また、インクルーシブ教育についての県教育委員会の見解と、今後の対応はどうか。

県教委も課題認識

県教育長 内閣府の「障がい者制度改革推進会議」で議論されてきたインクルーシブ教育については、現在、中央教育審議会の「特別支援教育の在り方に関する特別委員会」で、就学相談、就学先決定の在り方や、人的・物的な環境整備等を論点にしながら検討しているところです。

インクルーシブ教育については、障害のある子どもが、障害のない子どもとともに教育を受けるという考え方が、あると認識していますが、専門性を持った教員の配置や施設整備の充実等、さまざまな課題があると考えています。

県教育委員会としては、インクルーシブ教育について引き続き国の動向を注視していくとともに、今後とも一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育を確実に進めてまいります。

特別支援学校の過密化対策

吉本議員 県教育委員会は、特別支援学校の児童生徒が増加している原因をどのように考えているのか。

県教育長 特別支援学校の児童生徒の増加原因については、さまざまな指摘がありますが、とりわけ、一人ひとりの教育的ニーズに対応した特別支援教育に関する理解が保護者や児童生徒へ浸透し、特別支援学校の専門性や就労への評価や期待の高まりとなっていることが、その主な原因であると考えられます。

吉本議員 児童生徒の増加に伴う特別支援学校の過密化問題に、他の都道府県はどのように対応しているのか。また、現在、本県はこの問題にどう対応しているのか。

県教育長 関東近県の特別支援学校の児童生徒数について、過去10年間の増加率でみると、多い順に神奈川県が53・4%、東京都が43・8%、埼玉県が43・2%、茨城県が36・3%増となっており、千葉県の36・2%増と同様に、各都県

とも大幅に児童生徒が増加しております。

これらの都県では、特別支援学校の新設、分校・分教室の整備、仮設校舎の設置のほか、各学校独自の対応として、特別教室から普通教室への転用等を行っております。

千葉県ではこれまで、軽度知的障害の生徒を対象

自由民主党の千葉県議会議員会は、さきの12月定例会議で「千葉県体育・スポーツ振興条例」を党独自に提案し、全会一致で可決、成立させました。

近年、子どもたちの体力の低下傾向が続いていることなどから、新たな条例を制定することで、体育とスポーツを振興する上で、県の責務や施設の整備、財政上の措置などを明確化し、県民の健康保持・増進を図ろうとするものです。

吉本充県議は、日ごろ

に、高等学校の跡施設を活用した高等部の分校等を設置してまいりましたが、小・中学部や重度障害の児童生徒も増加しているため、これら児童生徒の過密化対策も含めた全体計画について、現在、検討しているところです。

他県では児童生徒の増加対策として、新しく学校を造っているところもあるとのことですが、本県の場合、高校の統合によって使わなくなった高校の校舎を積極的に転用すれば、大きな財政負担もなくやれると思います。どうぞ、「教育立県ちば」に向けて、知恵を絞っていただきたい。

要望 他県では児童生徒の増加対策として、

からスポーツ少年団の代表を務めるように、議員活動の中でもスポーツ振興に精力的に取り組んでおり、この条例制定でも中心的な役割を果たしてきました。同条例は、昨年10月に「ゆめ半島千葉国体」と障

増進、青少年の健全育成、地域社会の連帯感の醸成等に資することから、これらの施策を総合的かつ計画的に推進することで、活力ある地域社会の実現に寄与することを目的としています。

また、近年では「物の豊かさから心の豊かさ」へ人々の価値観も変化しており、余暇を生かした健康や体力づくりへ県民ニーズが高まっていることも、吉本県議らが条例化へ向けて努力した理由でもあります。

体育・スポーツ条例制定

また、近年では「物の豊かさから心の豊かさ」へ人々の価値観も変化しており、余暇を生かした健康や体力づくりへ県民ニーズが高まっていることも、吉本県議らが条例化へ向けて努力した理由でもあります。

富津市
特集

12月県議会一般質問

初心忘れず
皆さまに感謝

吉本みつる 県議

国交省が県に無断で 第二海堡の護岸改修実施

憤る保存運動の市民

吉本議員 幕末のペリー来航をきっかけとして、外国軍艦の侵入から江戸を守るため、東京湾内には砲台や台場の建設が計画されていました。その後、明治になつて富津沖に3つの人工の島が築かれました。これが海堡と呼ばれる海上の要塞で、大量の石を海中に投入して基礎とし、その上に堤防を築いて砲台を建設したものです。国土交通省は、大規模地震が発生した場合、第二海堡が崩壊・水没し、船舶の航行に影響を与えるとして、船舶の安全確保



12月県議会で再質問に立つ吉本県議

いままに着手されたが、その経緯と県の対応はどうか。県教育長 国土交通省は、第二海堡が「周知の埋蔵文化財包蔵地」とされていることを見落とし、文化財保護法に基づく通知・協議をせずに護岸改修工事に着手しました。県教育委員会は、国土交通省東京湾口航路事務所から事情聴取り、遺憾の意を表明するとともに、文書により厳重注意しました。



富津市沖の第二海堡で(後方に第一海保堡を望む)

知事「機会あれば見たい」

吉本議員 軍事に関する近代遺跡について、文化庁の報告書はどうなっているのか。また、県は第一・第二海堡の位置づけをどう考えているのか。県教育長 海堡などの軍事に関する近代遺跡については、文化庁が全国調査を行い、報告書を刊行することになっており、第一・第二海堡についても、平成16年2月に詳細調査が実施されたところだ。その後、文化庁が報告書を作成中とのことですが、

吉本議員 知事は第一・第二海堡をご存知だったでしょうか。森田知事 残念ながら知りませんでした。歴史的にも大変貴重な遺産だと思います。機会がありましたら、ぜひ行ってみたいと思います。吉本議員 知事は第一・第二海堡をご存知だったでしょうか。森田知事 残念ながら知りませんでした。歴史的にも大変貴重な遺産だと思います。機会がありましたら、ぜひ行ってみたいと思います。

マザー牧場へ道路完成

吉本議員 県道小櫃佐貫停車場線の富津市桜井地先で、県の尽力により二つの道路が完成しました。この道路は、富津市佐貫から観光地である鹿野山マザー牧場へ通じる路線ですが、道幅が狭いため、車両のすれ違いが困難であり、多くの観光客が訪れる休日には、長年、マザー牧場方面に向かう上り方向の一方通行でした。平成元年から山間の急峻な場所での道路整備を進め、22年の歳月を経て、本年7月15日に晴れて通行規制が解除になりました。この通行規制解除を受けて、その後の状況はどうか。県土整備部長 県道小櫃佐貫停車場線の富津市桜井地先から鹿野山に通じる区間のうち、特に狭路となっていた約1・7キロ区間の整備が、本年6月に完成したことから、夏休み前に休日の通行規制を解除することができました。通行規制解除後に、大型バスのすれ違いが容易になったことや、同じ道を行き帰りで通行できるようになったことなどにより、マザー牧場を中心とした鹿野山周辺を訪れる観光客から、大変喜ばれていると聞いています。

要望 年間100万人を超える人々が訪れる鹿野山の生命線ともいえる県道整備については、まだまだ十分とは言えません。観光バス等車両の大型化に伴い、安全面からも道路改良は急務であります。県財政の厳しい折ではありますが、引き続き、整備促進を強く要望いたします。

お知らせ

吉本充議員の県議会での質疑の模様は、千葉県議会のホームページから「インターネット中継(録画)」でご覧になれます。

吉本 充県議プロフィール

略歴

- 昭和31年12月 富津市に生まれる
- 昭和54年3月 國學院大學卒業
- 昭和54年4月 富津市役所に奉職
- 平成8年4月 富津市議会議員に初当選
- 平成11年4月 千葉県議会議員に当選
- 平成15年4月 〃再選
- 平成19年4月 〃3選
- 警察企業常任委員長
- 文教常任委員長

現職

- 県議会 文教常任委員会委員
- 〃 土石採取対策審議会委員
- 自民党県連広報本部長、政調会副会長
- 富津市スポーツ少年団本部長
- 天羽剣志会代表
- 富津市文化協会会長